

オープンプラン 6 年生
算数×ロイロノート×社会
9 月【資料の調べ方】
～2060 年人口推移予想～

9 月のオープンプラン 6 年生の算数では、「資料の調べ方」について学習しました。この単元では、6 年間で学習した表やグラフ等の図表から、数値や事象を読み取る学習が行われます。いわば、6 年間の表やグラフのまとめの単元です。

オープンプランの 6 年生では、この単元において、「人口ピラミッド」に着目しました。

教科書では、「1970 年」と「2010 年」の「日本の年齢別人口（人口ピラミッド）」が提示され、それぞれの年における「一番人口が多い年齢の範囲」が問われています。また、「日本の人口の変化と予測」のグラフから「高齢者が年々増加するが、総人口は減っていく」ことを読み取ります。

そこで、これらの統計資料とともに、国立社会保障・人口問題研究所ホームページ上で公開されている 1950 年から 2060 年の人口ピラミッドデータを、ロイロノートを使って加工し、動画として分析しました。動画にすると、人口ピラミッドの変化が一目でわかります。特に注目した年は、

- ① 2005 年(今の小学 6 年生が生まれた年)
- ② 2020 年(3 年後)
- ③ 2050 年(33 年後 小学 6 年生が 45 歳の時)

です。自分たちの年代に着目することによって、同世代の子供たちの数がどれだけ減少しているのか、そして、自分たちが 45 才になった時に、どのような社会になっているのか、自分の問題として、真剣に人口ピラミッドを見つめるようになりました。

さらに、算数としての教科の枠を超え、社会科の内容として、この「少子高齢化社会」において、どのような対策をしなければならぬのかを考え、話しあうようになりました。

これが、算数で身に着けた力を他の教科で生かしたり、自分たちの生活の場面に捉え直し、生かすことだと思います。

オープンプランの 6 年生の算数では、ただ問題を解いて答えを出す、解答欄に答えを埋めるだけでなく、教科の枠を超えて、将来起こりうる問題や事象を「想像する力」と、具体的な解決策を導き出す「思考力」を養っていきます。



参考資料:国立社会保障・人口問題研究所ホームページ(<http://www.ipss.go.jp/>)「人口ピラミッドデータ 1950 年～2060 年画像」

